

「学校評価」及び「学校関係者評価」のお知らせ

昨年11月に、全校児童に「子どもアンケート」を実施するとともに、保護者の皆様には本校の教育活動につきまして「保護者アンケート」にご協力いただきました。また、皆様からいただいた貴重なご意見を参考に、私たち教職員も今年度の教育活動を振り返り、学校としての自己評価を実施して参りました。

更に、2月26日(火)に学校運営委員会において学校関係者評価として、学校の自己評価結果と改善策について、ご意見をいただく予定でしたが、感染症予防の対応により残念ながら会議を行い、直接お話を伺う機会を持つことができませんでした。そこで、委員の皆様には一年間の取組について、学校に訪問の際の様子やお便り・資料等を参考に、個別に記述していただく形で評価を行っていただきました。集約したご意見を基に、学校評価の結果について下記にまとめましたのでご一読下さい。

本校の教育活動の成果、または不十分な面やそれに対する改善策などを明らかにするとともに、本校の教育活動に対する理解が深められ、学校と家庭、地域が一層連携を深めていくための一助となることを期待しております。

分野	評価項目	学校の自己評価				学校関係者評価	
		達成状況	成果	課題	改善の方策	評価の適切さ	改善策の適切さ
教育目標	「すじ道をたてて考える子ども」の育成は図られたか	B	○習熟度別少人数指導やTT指導、学び合いの学習、宿題・家庭学習、「太チャレンジ検定」、1年生の「ひらがな指導」等により、学習への集中力や意欲が増しつつあり、成果が少しずつあらわれている。	●「聞く・話す・書く」力については、まだ継続した指導が必要。 ●読書の習慣づけまではなかなか難しい。	◎全ての教科で学習用語を適切に使い説明させる等、意識的に場面を設定し粘り強く指導を続ける。 ◎学校での読書から興味・関心を高めるよびかけを継続する。	B	B
	「やさしくて思いやりのある子ども」の育成は図られたか	B	○本校の特徴である年間を通して異学年交流の活動等による成果と捉える。挨拶については、児童会を中心として全校に広げるための工夫した挨拶運動が行われた。	●学校だけではなく、時と場に応じた挨拶や友だち同士での言葉づかいも身につけていく必要がある。	◎適切な挨拶や言葉遣いの目的や価値についての理解を深める。 ◎認め合い伝え合う機会の設定を意図的に設けていく。	B	B
	「健康で明るい子ども」の育成は図られたか	A	○体力テストの結果から、体育の準備運動の工夫を図った。心臓あひ活動、30秒体力UP、委員会活動等での運動の工夫がみられた。	●委員会の取組として行ったり放送で呼びかけたりしている時は一時的に効果があるが、ハンカチ・ちり紙の忘れ物は依然として多い。 ●給食の好き嫌いの多さが気になる。	◎委員会での取組と各学級での工夫した取組を継続する。 ◎アレルギーへの対応があり完食指導は難しいが、バランスのよい食事の必要性を教え、苦手な物でも一口は食べる指導を行う。	A	A
	「ねばり強くやりぬく子ども」の育成は図られたか	B	○今年度から全校一斉屋清掃になったが、意欲的にしっかり取り組んでいる。 ○月毎のめあてや行事に向けた目標を持たせ、振り返りを行うことで、達成感や次の目標に向かうことができている。	●放課後や登下校時、大人の目の届かない所でもしっかりきまりを守ろうとする意識を高める必要がある。 ●SNSやゲームの使い方について約束を守れていない実態があげられており心配である。	◎ネットアンケートは対象を全学年と変更する。 ◎ネットモラルの学習を1年生から行う。入学説明会で「えべつスマート4ルール」について説明する。 ◎きまりの必要性を、時間をかけて継続して指導する。	B	B
分	評価項目	学校の自己評価				学校関係者評価	

野	評価項目	達成状況	成果	課題	改善の方策	評価の適切さ	改善策の適切さ
経営の重点	①PDCAサイクルによる学校評価や行事反省を通して確実に学校改善を進めるとともに、職員の経営参画意識の高揚を図る。	A	○計画・実施した取組について、各部や学年、そして全体で振り返り検証・改善の意識を持ちながら協働の体制で進めることができました。	●年間の経営プログラムをもとに、業務の重点化や効率化を一層進めていく。	◎全職員が協働の高い意識を持続しながら協働の体制づくりと、意識の醸成に引き続き重きを置いて取り組む。 ◎毎月重点を決めて取り組む。会議や打ち合わせの持ち方を工夫する。地域ボランティアの拡充に努める。	A	A
	②地域とともにある学校の観点から、保護者や地域住民との双方向での情報交流を充実させるとともに、学校としての説明責任を果たし、保護者や地域の理解を得よう努める。	A	○各種通信や学校運営委員会、PTAの会議、学級・学年懇談、学校説明会、地域行事への参加等を通して情報発信をし、地域からの情報も得られるよう連携に努めている。	●新学習指導要領実施による様々な対応や変更点等や、職員の働き方改革の必要性の理解に引き続き努める。	◎学校に大変協力的である地域・保護者の方が多く、今後も連携を大切にしていこう。 ◎学校の方針を明確にわかりやすく伝える工夫に努める。	A	A
教育課程・学習指導	①学習規律や学び方を徹底し、6年間を通して主体的に学習する態度を培う。	B	○「学びの約束」を中心として統一した指導により、積み上げができています。 ○「学びのスタイル」を共通の指導の流れとし、自力解決と集団解決の時間をとりながら思考力を高める指導に努めた。	●学年で身に付けるべき学び方を落とさずに積み上げ続けることを継続。	◎学級・学年が変わっても児童が安心して学習できる「学びの約束」の継続と取組の徹底を図る。	A	A
	②次期学習指導要領への準備を遺漏なく進め、必要に応じて職員間の共通理解や保護者への情報発信を行う。	B	○教務部が中心となり必要な情報をし、職員の共通理解がなされた。 ○業務を分担して全職員で行う体制を確立することができた。	●作業に必要な情報の発出が遅く、影響があった。	◎学級懇談や学校便り、HP等を通して情報発信を行い理解に努める。 ◎年間を通して、実施後の検証・改善を行っていく。	A	A
	③子どもの実態に応じた指導体制(TT、習熟度別指導、少人数指導)の効果的な活用を進める。	A	○担任外教諭、学習支援員、授業改善推進チーム、学習サポート教員を計画的に配置し、より効果の高い指導となるよう努めた。 ○理解に時間がかかる児童について、少人数指導を丁寧に継続し成果がみえた。	●学校体制から、少人数やTTの時数の今年度以上の増加は難しい。	◎次年度の職員体制と全体の業務等をみながら、児童への効果的な指導の在り方を計画していく。	A	A
	④本校としての6年間を通じた家庭での学習の取組ませ方をもとに、家庭での学習と授業の連携を図り、学ぶ意欲の向上や家庭での学習の内容充実を図る。	B	○昨年度から宿題・家庭学習について全校的な取組を実施し、年2回「家庭学習強化週間」を設け、少しずつ定着と広がりを見せている。	●改めて、低学年からの積み重ねが大事であることを再認識した。 ●家庭での支援が難しい場合もある。	◎「学年×10分」の目標を、「学年×10分+10分」とし、保護者への理解と協力を求める。 ◎取組や成果について学校から保護者への発信、家庭の協力を得られるよう工夫した取組を粘り強く続ける。	A	A
分	評価項目	学校の自己評価				学校関係者評価	

野	評価項目	達成状況	成果	課題	改善の方策	評価の適切さ	改善策の適切さ
生徒指導	①互いのよさを認め合う活動や、いじめ根絶のための児童による取組を推進する。	B	○年2回のいじめアンケートや日常観察から、担任による教育相談や指導でいじめの未然防止や解決に取り組んだ。 ○ふれあい活動や各学年・学級の活動において、よさを認め合う活動を工夫している。	●「平和」や「命」をテーマにした集会や児童会の活動は行ったが、いじめをテーマにしたものについても取り組む余地があった。	◎集会活動のテーマを「平和・命」「いじめ・命」と隔年になるよう工夫していく。	B	B
	②共生と思いやりの心を育む異学年交流や通常級と支援級の交流を適切に進める。	B	○年間を通じたふれあい活動では、下の学年の事を考え優しさを前面に出して活動している。 ○おおぞら学級が交流学級に行く機会を増やし関わりが多くなった。	●交流の内容や回数・場面など、工夫していく必要がある。	◎通常級と支援級の交流について、さらに工夫をしていく。 ◎遊ぶだけではなく、学校のことを教えてあげたり、生活面の手本となったり、活動の内容や意識付けを工夫していく。	A	A
	③生活チェック週間やネットアンケートの機会を活用し、メディアとのつながりを含め、望ましい生活習慣を身に付ける教育を家庭・地域と連携して推進する。	A	○江陽中・豊幌小・太小PTAが合同で「ネットモラル研修会」を開催した。各校の実態報告と講師による講話により、理解が深まった。 ○3～6年生でネットアンケートをとり、実態を把握し保護者へ情報提供や注意喚起を行った。	●既に低学年から使用の実態や問題事例が寄せられている。	◎次年度からは全学年ネットアンケートとネットモラルの学習を行う。 ◎入学説明会で「えべつスマート4ルール」を配布し、保護者への啓発を行う。	A	A
	④危機の予測や回避の視点を大切に安全教育を大切にするとともに、災害や不審者対応時に備えて児童の保護者への引き渡し手順を明確化し、危機管理体制を強化する。	A	○今年度新たに「引き渡し訓練」を実施し、計画通り円滑に進めることができた。 ○連絡メールの登録者が100%となり、転入・転出があっても確実に引き継いでいる。	●車を利用できない場合の引き渡しだったので、今後、車を利用できる場合の引き渡しの方法を検討する必要がある。	◎次年度は、車を利用して迎えに来る場合の引き渡し訓練について、シミュレーションを行うとともに、実際に実施する。	A	A



地域連携	①地域に開かれた学校の観点から、江別型コミュニティ・スクールの制度を活用し、学校と地域が目標を共有するとともに、地域の学校運営への参画や評価、学校支援などを通して、地域と一体となって子どもたちを育む。	A	○交通指導ボランティアの方々の見守り活動は、児童の登下校の安全・安心に大変助かっている。 ○ここ数年で、学習支援のボランティアの方が大幅に増えている。家庭科ミシン補助、フレッシュタイム（朝学習）の学習支援、日本語指導、北海道みんなの日の外部講師、1年生むかしあそびの学習支援、スキー補助等、非常に充実してきている。	●児童数・学級数の減少とともに、担任外教諭の数が減り、学校全体の細やかな配慮を維持するために、一層地域の支援が大切になる。	◎現在行っている地域学習を「江別小学校ふるさと教育」として体系化し、教育計画の中に位置付けていく。 ◎学校運営委員会（CS）において、学校の経営方針と学校への協力についての理解をいただく説明に努める。	A	A
	②地域行事、関係団体への児童の参加や支援を行い、互恵的な関係を構築する。	A	○低学年の生活科の学習や高学年の社会・総合では、地域に向いて調べる等の学習が行われている。 ○合唱団が地域のお祭りや様々な施設へ出向き歌声を届けていることは、地域貢献活動として意義深いことである。 ○夏のラジオ体操やお祭りに参加する児童も多く、高学年がリーダーシップをとる姿もみられる。	●地域に見守られて育っている事を気づかせ、感謝の気持ちを育む継続した教育活動を推進する。 ●地域のよさを理解し、地域を大切にす心の醸成に努める。	◎地域連携の大切さを認識し、関係構築のための体制や意識の醸成に努める。	A	A

【学校関係者評価委員の主なご意見等】

- ・異学年が交流する「ふれあい活動」により、会話や相手を思いやる気持ちが増え、いじめが減ると思う。
- ・地域との協力体制がとれていることは素晴らしい。ボランティアは逆にやりがいや楽しみだという方が多い。
- ・地域を大切に思う「ふるさと教育」をすすめて欲しい。
- ・今年度から全校一斉の昼清掃になったが、学校が綺麗だと気持ちがよい。
- ・災害や感染症等の対応を迅速にできる連絡メールの加入率が、100%となったのは大変よい。
- ・「聞く・話す・書く」力についてはすぐに身につくものではないので、保護者と連携し継続した取組が必要である。
- ・学力とゲーム、スマートフォンの使用時間は相関性がある。子ども達だけの問題ではない。親のモラルである。
- ・「えべつスマート4ルール」を保護者に徹底することが大切である。
- ・家庭学習強化週間は、学力UP、集中力UPにつながる。回数をもっと増やしてもよい。
- ・先生方に無理がかからないよう、家庭にも協力を求めた方がよい。

